(一) 第727号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　(毎月1・16日発行)　昭和38年(1963)3月16日　(土)

発行所
三池炭鉱 労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033 7140 番
編集兼発行人 澁田紀生

第三次合理化を!!
組合ぶつつぶしの責任追及撤回を!!
平和斗争の推進を!!
全組合員・家族が団結してたたかい抜こう。

組織の決定候補を!!

平和斗争 全力あげて勝抜こう

目前に迫った統一地方選挙は、春斗と併行してたたかわれることとなり、政策転換、賃上げ、合理化反対のたたかいとともに必勝を期してたたかわなければならない。

組合では、知事一、県議二、市議十、村議一の計十四名の公認、推せん候補を組織の機関で決定し、平和斗争機構も確立してたたかいをすすめている。

政府・自民党は対米従属政策の推進として貿易自由化を強行した。その結果、炭労七万人の首切りをはじめ、すべての産業の合理化を労働者の犠牲のみにおしつけてきている。さらにその反動政策はいよいよロコツになり、民主勢力の弾圧で「貫されている。

この政府の反動政策は当然地方自治にも大きく反映され、地方自治体に対する官僚支配をますます強化している現状である。

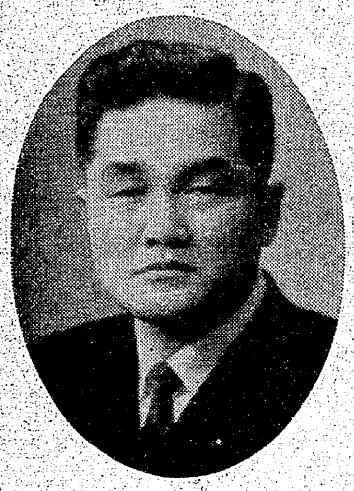
こういう重大な段階を迎えた今回の地方選挙は「自治体を住民の生活と福祉に即した自治体として守り育てて、日本の民主主義の底辺を拡大させる」重要なたたかいの機会でもある。

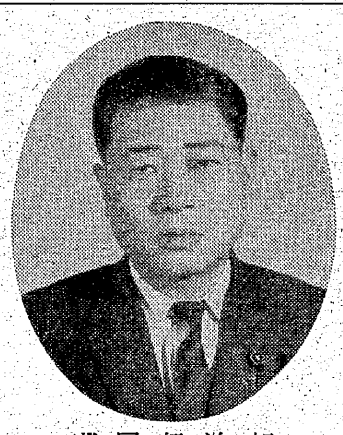
三池労働者の真価を見せ、組織候補の必勝をたたかいとろう。

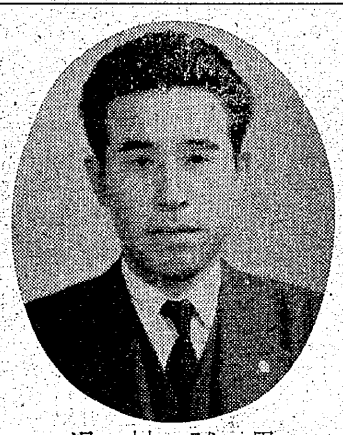
地方選挙はすでに終盤戦に入っているといわれる。われわれは、家族ぐるみで、組織の総力をあげて組織候補の必勝を期してたたかい抜こう。

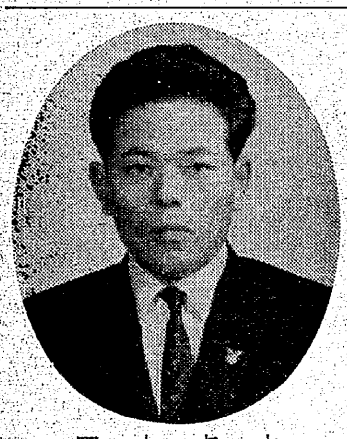
福岡県知事候補
一多崎う

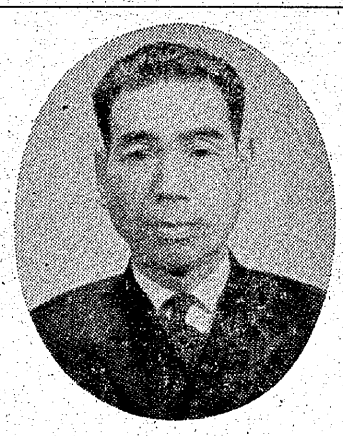
福岡県議候補
浦川守

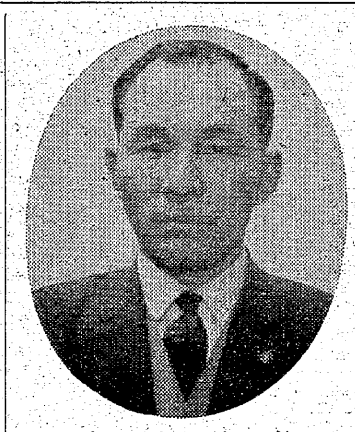

熊本県議候補
酒井善為


運尾信治郎

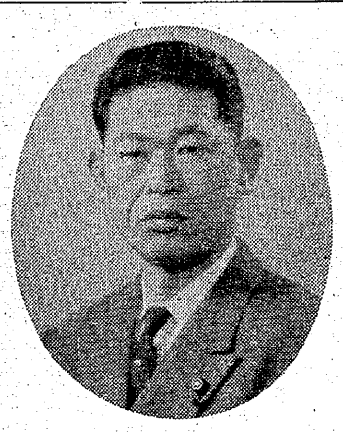

湯村誠男

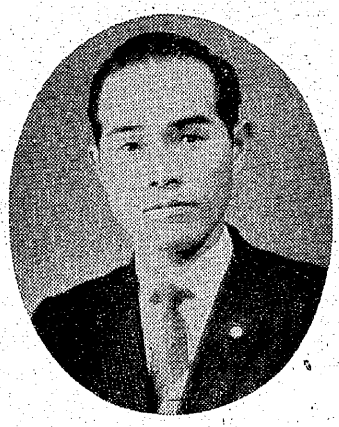

大牟田市議候補
田中貞夫

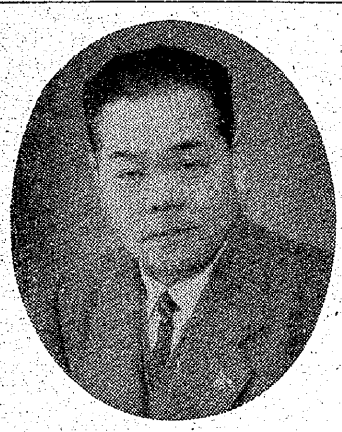

月足康則

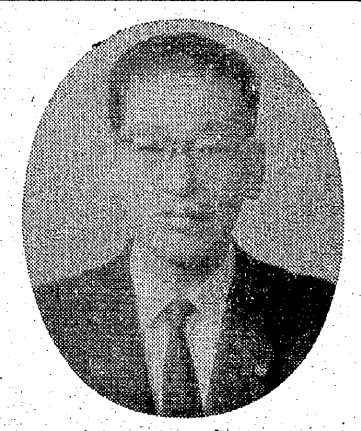

中川末義

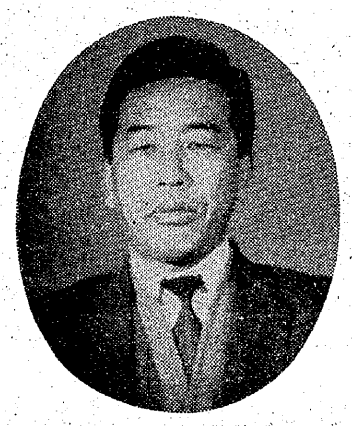
荒尾市議候補
浦浜真光


小森隆一


坂本敏雄


益田武利


福川次郎


山川村議候補
江崎次郎

吉田法晴氏が大勝

百万都市北九州市の初代市長に、社会党の吉田法晴氏が、自民・民社党の連合軍を破り、約三万票の大差をつけて見事に当選した。

このことは、北九州市民が池田内閣の反動性と民社党の無定見さを見破り、革新市政の実現を強くのぞんだ結果が、圧倒的な勝利となったものである。

労働者の根性を確立しよう

第二組合の新賃金要求

いま第二組合では、新賃金一一〇円（基準内外月額三、〇〇〇円）の要求について大衆討議中である。

これは、石炭調査団の答申にある「年率五%の賃上げ」と「物価上昇六・八%」を骨子としたもので、次の算式による。

S37年10.11.12月平均基準内実績
963円×（5%＋6.8%）
＝113円≒110円

第二組合指導部は

(1)賃上げは支払い能力でなく、社会性を会社は考慮せよ。

(2)石炭産業が不況であっても、労働者の生活安定を保障せよ

(3)第三次合理化の犠牲排除とともに公正配分要求は労働者の権利である。

といっている。

このような第二組合指導部のいい方は、要するに「好不況に関係ない賃金要求」ということになり、生産性向上運動に協力しているだけでは、賃金は上らず、生活も苦しくなるという率直な大衆感情に立たざるを得ないことを示している。

しかしわれわれは、これを第二組合指導部の「前進」というよりは、ひどい第三次合理化を突きつけられ、体にこたえる労働強化と転制支配の弾圧にたいする第二組合員諸君の「反ばつ」として評価するものである。

第三次合理化と新賃金

実際には「肩叩き」の強制解雇になることが、希望退職についてのわれわれの経験であったし、田川・山野・美唄三山に向けられた閉山攻撃がどんなに激しい「経営不信感」をまき起しているかも周知のとおりだ。

第三次合理化においては、クビ切りと賃下げと労働運動弾圧が骨子であり、さらに「標準作業量引き上げ」が重大な問題となってきた。

われわれは、卒直にいいたい

いうまでもなく「賃金の社会性」をいうなら、われわれのヨーロッパなみの五、〇〇〇円要求が正しいのであるが、一応それは別としても新賃金と第三次合理化は、労働者の立場からは決して切り離せない、と。

第二組合指導部が「経営者の無為無策」や「賃金要求の権利」をいくら強調しても第三次合理化と真剣に対決する構えをつくらぬ限り、組合員のための「実績」はあがらないではないか

三池労組員の任務

われわれは、第三次合理化が第二組合員や転員層を含め、すべての労働者にたいする「資本の攻撃」であることを、粘り強くかれらのすべてに指し示すことに全力をつくそう。

新賃金をかちとる力も第三次合理化をはね返す力も、労働者の抵抗と労働組合の「自主性」がその基礎であることについても話合おう。

そして、転場からの地域からの労働者らしい「共斗」の意義を示そう。